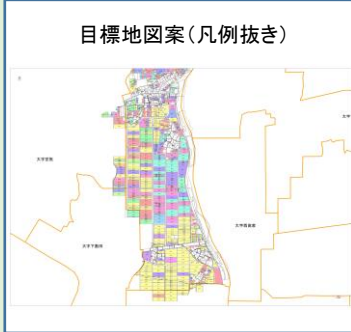


地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年11月末時点）

課題を掘り起こし、将来に活かす地域計画				大分県宇佐市 下庄地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	19経営体	農地面積 （うち農振農用地）	83.7ha 83.7(ha)	主な農畜産物	水稻
農業地域類型	中間農業地域	遊休農地	0ha	現状の集積率 （目標）	72.3% （80%）

地域の現状と課題	将来の地域農業の方向性
・下庄地区は、3つの集落（新貝・下庄・布津部）で構成されている。地区内で集落をまたぐ入作・出作もあり、営農上としても水系としても一体性がある。 ・新貝集落には法人があり、集積・集約ともに現状として限界値まで達している。 ・下庄集落は担い手が主な受け皿となっており、集積・集約ともに現状として限界値まで達している。また、担い手間の人間関係もよく、お互いの作業を確認しながら水の融通等も自発的に行っている。 ・布津部集落は担い手が主な受け皿となっており、集積・集約ともに現状として限界値まで達している。また、排水機能に課題が残るものの、水引役の継承が成されているなど集落の農地は自分達で守っていく意思を強く持っている。 	・主食用水稻・大豆・麦・WCS・飼料作物等が生産されている。今後も土地利用型農業が中心となるが、法人の経営を安定させるためにも、高収益作物（枝豆等）の導入が課題としてある。 ・ほ場整備済みの農地が多く、30aの農地として整形されている。 ・新貝地区では畦畔除去の事業を活用し、一部60aの農地として利用している。今後はほ場整備事業等を活用し、ほ場の大区画化を進め、品質・生産性の向上を目指す。 

協議を進める過程で発生した課題	取組経緯（課題への対応）及び今後の予定
・一部の地権者と担い手の間で、集約に対する阻害要因あり。 ・地区としては、法人及び担い手に対する集積・集約が現状として限界値まで達している。 ・担い手へのアンケート調査の結果、離農又は規模縮小の意向はなかった。 ・更なる集約のためには、地権者の代替わりや離農者の発生、ほ場整備等が必要。 ・転作作物としては大豆からWCSに変わったため、近年水の使用量が増えている。 ・水利設備が脆弱なため、お互いに水を融通しながら個々の営農を行っている。	・人・農地プラン策定あり。担い手による集積・集約が限界値まで進んでいるため、現況地図を目標地図（案1）とする。また、担い手の協議による補完地図の作成を進め、これを目標地図（案2）とする。 ・一部の地権者と担い手の間で、集約に対する阻害要因が存在するため、どちらの案で地権者合意をとり、市として認定し公示するかは担い手の判断とする。 ・補完地図を目標地図とする場合は、農業委員・農地最適化推進委員・農業委員会・農政課・地元担い手で、地権者合意取得に努力する。 ・現況地図を目標地図とする場合でも、補完地図は市・農業委員会・地元担い手の共通認識として残るため、今後の権利設定に際して、必ず確認を行う。令和5年12月に目標地図素案を作成済み、令和7年3月に地域計画の公告・策定を予定。  